

牛久：学校周辺に見る自然

第28号 ひたち野うしく小(、ひたち野うしく中)

2020年6月3日発行

＜ 晩春の校庭の植物 ～⑨コケ植物 ＞

こんにちは。開校11年目のひたち野うしく小校庭、4月末～5月の植物。最後に、コケ植物。コケは暗くじめじめしたイメージをもたれがちですが、虫眼鏡や顕微鏡でのぞくととても美しいのですよ。



ほうしのう 胞子囊をつけたナミガタタチゴケ(左：スギゴケ科)と、おかぶ 雄株(右)。

まずは、じんじゃ こうえん神社や公園などの日かげになりやすいところで見られる、ナミガタタチゴケ。オスとメスめ かぶがあって、雌株には胞子のつまった袋、ふくろ胞子囊ほうしのうができます。



へびのうろこもようのような模様をしたジャゴケ(左：ジャゴケ科)と、そのアップ(右)。



次に、日かげの湿った地面しめ じめんに多いジャゴケ。へびのうろこもようのような模様なので、「蛇苔」。うろこもよう模様の中央に白っぽくあな あ穴きこうが開いていて、気孔やくめのような役目をしているとかいわれますが、どうでしょう。

ジャゴケを小型にしたような、ヒメジャゴケもありました。

ヒメジャゴケ(ジャゴケ科)。秋に、むせいが無性芽という「むかご」のようなものをつくる。



フタバネゼニゴケ(左：ゼニゴケ科)と、ジンガサゴケ(右：ジンガサゴケ科)。

最後に、ゼニゴケにに似たフタバネゼニゴケと、ジンガサゴケ。どちらも、校庭しめの湿ったところで見られます。コケといっても、いろいろですね。皆さんも、虫めがね片手に、観察してみませんか？

【理科支援員：宮内】